

親を支援しなければ、子どもの心は育たない

巻頭言

はらだ まさふみ
原田 正文

毎年3月から5月にかけて、毎週1回8週間にわたり、カナダの親教育プログラム“Nobody’s Perfect”を実践している。この期間は、まだ肌寒いころに始まり、桜の花を見て、新緑に向かう季節であり、気持もだんだんと明るくなる。その季節の変化のように、最初は緊張し、うつむきかげんであった参加者の表情がだんだん明るくなり、晴れやかになっていくのを見ながら、参加型の生涯学習理論に基づくグループワークの効果に感動している。今年も新しい参加者を迎え、明日が3回目である。

次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画も1年目が終わり、年度末にはその評価が各地で実施された。私はいくつかの県と市にかかわっているが、次世代育成支援が動きだしたなあ、と実感している。次世代育成支援については、「メニューは出そろった。これからは、その量と質が課題である」という認識が一般的である。しかし、カナダや米国で20年来、国をあげて実施している“Nobody’s Perfect”のような「親を親として育てる」プログラムは、日本では今始まったところである。

私の子育て支援の原点は、二十数年来担当している精神科「小児・思春期」専門外来である。子育ての結果は思春期にあらわれる。思春期になり、不適応を起こしてからではなく、乳幼児期の子育てにかかわりたい、そして思春期で行き詰まる若者たちを少しでも少なくしたいというのが私の願いである。ここ十年余り子育て支援ボランティア活動をしてきたが、その中で強く感じているのは、“親を支援しなければ、子どもの心は育たない”ということである。そして、“Nobody’s Perfect”に取り組んで3年半がたち、その確かな手応えを“Nobody’s Perfect”に感じている。

■プロフィール 1945年生まれ。大阪人間科学大学教授(精神科医)。NPO法人「こころの子育てインターねっと関西」代表(<http://www9.big.or.jp/~kokoro-i/>)。「Nobody’s Perfect Japan」代表(<http://homepage3.nifty.com/NP-Japan>)。著書『育児不安を超えて』『子育て支援とNPO』(朱鷺書房)、『小学生の心がわかる本』『みんなで子育てQ&A』(農文協)等。

フォトエッセイ *Jigsaw Puzzle 43*

写真・文 落合由利子



ダイニングテーブルを新調することにした
やっぱり無垢の木がいいな
たまにはワックスで磨いて
月日とともに色が淡くなっていく
いいね、ドキドキしちゃう
あーでもやっぱり高いんだな～
なんて見ているうちに
今一番欲しいものは何?と思った
一番欲しいものってお金では手に入らないのね
木の匂いのする都会の家具売り場で
ふとお金持ちの孤独を知ったような気がした
(お金持ちではないのにね)